

カナダ金融政策（2024年1月）

焦点が追加利上げの有無から利下げ開始時期にシフト

2024年1月25日

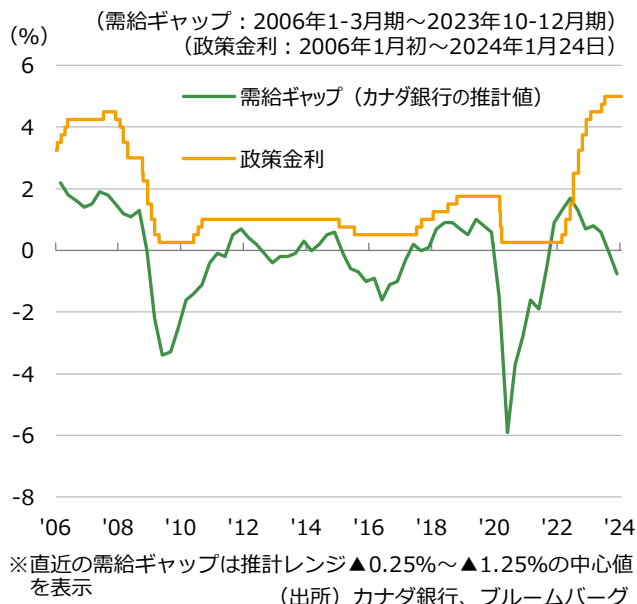
利下げ開始の条件は基調的なインフレ率の持続的な鈍化

カナダ銀行（中央銀行）は1月24日（現地）に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を5.00%に据え置くことを決定しました。据え置きは4会合連続です。

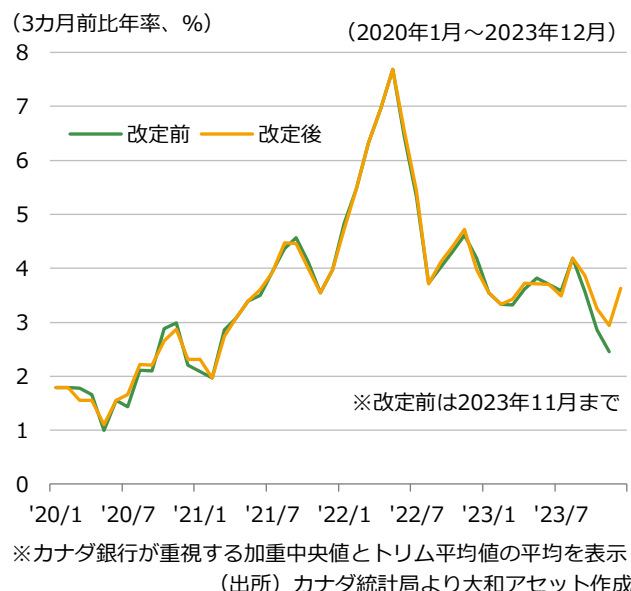
今回の注目点は、声明文から「必要ならば更に利上げする用意がある」との文言が消えるかどうかでした。結果は、多くの市場参加者の予想に反して削除されました。更に、マクレム総裁は会見で「経済全体の需要が供給を下回っており、金融政策に関する議論は、物価の安定を取り戻すために政策金利が十分に引き締め的な水準にあるか否かから、政策金利をどれだけの期間据え置くかに移行している」と述べ、焦点が追加利上げの有無から利下げ開始時期にシフトしたことを示唆しました。これらを受けてカナダの国債利回りは米国対比で低下し、カナダ・ドルは主要通貨に対して減価しました。

カナダ銀行は利下げに踏み切るにあたり、基調的なインフレ率の持続的な鈍化を確認する必要があると考えているようです。同行が重視するコアCPI（消費者物価指数）の3カ月前比年率は昨年11月のデータで2%の物価目標に向けて進展したかと思われましたが、12月分が上振れるとともに過去分が上方改定されたため、現時点ではあまり進展していないと評価されます。ここから持続的な鈍化を確認するとなると次回3月会合では時間不足のため、利下げ開始は早くても4月会合、現時点で可能性が最も高いのはその次の6月会合と考えられます。市場は4月の利下げを6割超、6月までの利下げを100%織り込んでいます。

カナダ：需給ギャップと政策金利



カナダ：コアCPIの改定前後の動き



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management